

| 領域                                  | 重点目標   | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |   |
|-------------------------------------|--|--|----|--|---|
| 組織・運営                               | 学校評価システムを計画的・機能的に運用し、教育の質の確実な向上を図る   | 生徒による授業評価アンケート及び学校の経営計画中間評価、総括評価を計画的に行うとともに速やかに結果を公表する。                          | B  | 年間2回(6月・10月)に生徒による授業評価を実施し、ホームページで公表した。学校経営計画中間評価においては過年度比較を公表し、本校の現状を示した。<br><br>保護者による学校評価を年間3回(9月10月11月)実施した。アンケートの回答者数(417名)も昨年度を超え、多数の保護者による評価が実施できた。特に「Sagano Dynamics」の取組が保護者に定着し、本校の教育活動への理解が深まっていることがうかがえた。 |   |
|                                     |  | 学校評議員や保護者による外部評価を充実させ学校改革に生かす。   | B  |  |   |
|                                     | 災害・防犯等学校の危機管理について、日頃から対応できるように教職員・生徒の共通理解を深める。   | 防災・防犯等で更に工夫すべきことを検討し、安心・安全の観点から迅速な対応を行う。   | B  | B  | 講義室の窓外への手摺を設置し、日常より安全安心の学校作りの観点で校内の整備を行い、事故の未然防止に努めた。関係機関と連携を密にした。  |
| 教育課程の編成と実施                          | 学校経営方針を実現するため、教育課程の不断の検証を行う。   | 教育課程等検討会議で教育課程を不断に検証し、生徒の学力実態及び大学入試改革に対応できるよう必要な見直しを行うとともに、新指導要領を見据えた教育課程の検討を図る。 | A  | A  | 類人文系および、京都こすもす科人文社会・国際文化系統における2年次の地歴について履修単位数の見直しや、理科及び大学入試センター試験の公民科目対応を図るため1年次教育課程の調整を行った。<br>新学習指導要領を見据えて、総合的な学習の時間および道徳に関する教育について、計画を立案した。<br>24年度先行実施の数学・理科についても円滑に移行できるようカリキュラム上で考慮した。  |
|                                     | 平成20年度の改編の成果が出るよう、教育課程を確実かつ効果的に実施する。   | 京都こすもす科と普通科第 類人文系の教育課程を効果的に連動させながら週35時間授業を充実し、学力の伸長を図る。                          | B  | B  | 京都こすもす科と普通科第 類人文系・理数系(平成22年度より設置)の教育課程を効果的に連動させるために同一内容の講座等の開講をするなど、教育課程の編成を行った。<br><br>授業と補習の連動が図れた。2年普通科 類において補習の受講者数に若干の減少がみられた。また、次年度の3年生自由履修科目の選択希望が当初予想より少なかった。<br>「活躍する普通科卒業生」を発行し、生徒の学習意欲を喚起した。   |
|                                     |  | 普通科第 類では週32時間授業と補習を効果的に連動させ、学力の充実を図る。  | B  |  |   |
| 京都こすもす科の各系統の特色に応じた教育内容の一層の充実・推進を図る。 | 引き続き専門学科に関わる教育研究を行い、各系統の特色にふさわしいフィールドワークやサマーキャンプ、高大連携等のあり方を検討する。また、サイエンスレクチャーシリーズに倣って文系系統でも同様の取組を企画する。 | B  | B  | 専門学科教育は概ね計画通りに実施できた。来年度実施に向け、アカデミック・ラボの再編を計画中である。高大連携と高企連携をラボやレクチャーシリーズ・専門科目と関連させて一層の充実を図る必要がある。また、 類及び各系統のフィールドワークについて内容等の検証と改善を検討する。<br>サイエンスレクチャーはもとより、アカデミックレクチャーシリーズを新たに実施(年間22回)した。                            |   |
| 学習指導                                | 授業を中心に据えながら、計画的な学習習慣の確立により学力の定着を図る。  | 授業準備とベル開始の励行により、50分の授業に集中する姿勢を身に付けさせる。   | B  | B  | 家庭学習定着月間においてベル着授業開始の徹底に努めた。授業を大切に、授業に集中することができる生徒は増加しているが、予鈴での着席・準備の観点からは課題が残る。<br><br>3学年では、生徒一人一人の課題は明確であり、目標に向けて学習に取り組む姿勢が確立された。1,2学年では生徒一人一人の家庭学習をチェックする取組を継続的に実施し、一定の成果を上げた。特に2学年においては「朝学習」の励行など進取の取組を実施した。しかしながら、強く迫らないと課題が出せない生徒への指導や学習時間の増加を図ることが課題である。<br>長期休業中やGWなどの連休における課題調査の実施(年間5回)などにより、各教科の課題の内容や量の調整を行った。<br>生徒個々のレベルに応じた「複線型課題」など、きめ細かな指導について可能性を探る必要がある。 |
|                                     |  | 課題の提出を徹底させるとともに予・復習を習慣付けさせ、学習習慣の自己管理を促す。   | B  |  |   |
|                                     | 主体的・発展的な学習を促し、学力の向上を図る。  | 生徒の進路希望、学力層に応じ、進学補習、チャレンジセミナー等を実施し高次の目標設定、維持につなげる。                               | B  |  | 課外補習等へ積極的に参加する生徒は多い。更に出席状況をよくすることに取り組みたい。進路希望や学力層に応じた進学補習やチャレンジセミナー などの実施を通して、高次の目標設定や志望の維持につなげることができた。   |

| 領域         | 重点目標  | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |  |
|------------|---|--|----|--|--|
| 進路指導       | 自らの生き方や進路について主体的に考える力を育成するとともに、自己の進路適性を理解させる。   | 講演会・アセンブリー・進路LHR等を計画的に実施し、進路情報を収集し、活用する能力・態度を養う。                                 | B  | 生徒は定期的、計画的なアセンブリー・進路ホームルーム等を通じて、必要な情報を獲得し、進路意識を高め、進路実現に向けて自ら取り組むようになった。生徒一人一人に個別指導と集団指導をうまく補完しあう指導ができた。                                  |  |
|            |   | 学部・学科、職業研究を主体的に進める力を培い、志望理由の明確化に努めると同時に、進学希望者が大半を占める高校におけるキャリア教育の可能性について検討を開始する。 | B  |  | キャリア教育の観点から講演会を実施した。安易な学部選択にならぬよう今後ともキャリア教育の観点から進路意識の啓発を継続していくことが課題である。  |
|            | 生徒一人一人にとっての高い進路目標の設定とその実現に向けて指導の充実を図る。          | ホールーム担任による生徒・保護者との面談をきめ細かく実施し、個々の課題を明らかにし生徒自身による自己変革を促す。                         | A  | 生徒面談や保護者面談を通して、個々の生徒に対する理解を深め、また、生徒に自らを振り返り、考えさせることができ、進路実現を生徒自らの問題として捉えさせることができた。<br>成績の不振な生徒へ組織的に三者面談や教科担当面談を実施し、生徒一人ひとりへのきめ細かい指導を行った。 |  |
|            |   | 実力テスト・模擬試験につき計画的な受験指導を行い、その結果を各教科の授業、補習に反映させる。                                   | B  |  | 模擬試験結果のフィードバックを迅速に行った。個々の課題を明らかにし、補習や学習指導に活かすことができた。実力テストの事後指導の方法に更なる工夫が望まれる。  |
|            |   | 生徒の進路希望、学力層に応じ、進学補習、チャレンジセミナー等を実施し高次の目標設定、維持につなげる。                               | B  |  | 課外補習等へ積極的に参加する生徒は多い。更に出席状況をよくすることに取り組みたい。進路希望や学力層に応じた進学補習やチャレンジセミナーなどの実施を通して、高次の目標設定や志望の維持につなげることができた。   |
|            |   | 全教員一致した指導の方向性を確認し合う場として、進路検討会、教科担当者会議を充実させる。                                     | B  |  | 進路検討会や教科等担当者会議の実施を通して、研修・情報交換を活発に行った。様々な場面に対処する進路指導法を蓄積、共有化を図ることが課題である。実施時期や問題提起の方法などを工夫してさらに活発な意見交換の場としていく。   |
|            | 教育課程が大幅に変更されている平成20年度入学生の指導体制を整備する。             | 2,3年次進学補習体制の確定、進路関連書式の整備など次年度準備を完了させる。   | B  | B  | 平成22年度実施の自由履修科目や進路補習の体制を整えることができた。調査書等進路関係書式の電算化など次年度準備を整えた。   |
| 学校図書館      | 学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実させる。                     | 図書館資料等を収集し、整理、保存し、生徒及び教師の利用に供する。   | B  | B  | 生徒への読書啓発に努めた。<br>読書に関するアンケート調査結果や府立図書館巡回サービスの活用等を図るなど教科等の要望に鑑みて、図書資料の収集と呈示が行えた。<br>蔵書の点検を実施し資料の確保に努めた。   |
| 学校図書館      | 学習・情報センターとしての学校図書館機能を充実させる。                     | 図書館活用に関して適切な指導を行い、読書意欲の向上、読書習慣の形成に努める。   | B  | B  | 新着と話題図書の案内(月1回の「ライブラリーニュース」の発行)や「予約カード」の活用を通じて図書館活用で一定の成果をあげた。年間(4/1～2/28)の貸出冊数は約6800冊であった。また感想文集の発行などにより生徒の読書意欲の向上に努めることができた。<br>図書委員会便りの発行など生徒の図書委員会活動を活発に行った。 |
|            |   | 全教育活動を通じて図書館の計画的な利用を促進する。  | B  |  |  |
| 生徒指導・特別活動等 | 基本的な生活習慣を確立させ、自主的かつ規律ある集団の育成と、生徒一人一人の個性の伸長に努める。 | 関係分掌間の連携を密にし、学年部の一致した指導により遅刻者の減少に努める。  | B  | B  | 遅刻防止習慣の取組や朝学習の取組等で遅刻防止に一定の成果が見られたが、生徒の時間管理の意識の向上や生活習慣の確立をめざし指導方法の改善を更に図ることも必要である。  |
|            |   | 傘さし運転等、自転車乗車のマナーを守らせる。   | B  |  |  |

| 領域             | 重点目標  | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題   |   |
|----------------|---|--|----|---|---|
| 生徒指導・特別活動等(続き) | 基本的な生活習慣を確立させ、自主的かつ規律ある集団の育成と、生徒一人一人の個性の伸長に努める。(続き) | あらゆる場面で、あいさつ・言葉遣い等礼儀作法の指導を徹底する。                  | C  | 年間を通じて入室マナーの指導がきちんと行えたが、ショートホームルームや授業開始時など、声を出して挨拶することが不十分である。指導方法も含めて、学校全体として組織的に今後も指導を継続する。   |   |
|                |   | 部活動への加入を奨励する。                                    | A  | 80%以上の生徒が熱心に部活動に参加し、高い加入率を維持している。目的を持って熱心に部活動に取り組んでいる。  |   |
| 健康・安全教育        | 心身ともに健康に過ごす環境づくりを行い、自己管理能力を身につけさせる。                 | 生徒の実態に応じた対応を行う。                                  | B  | 新型インフルエンザには、関係機関との連携を密にし、的確な情報のもと、適切な対応ができた。また学年部との連携のもと健康診断の結果や日常の疾病対応においては速やかに保護者に伝えるなど、迅速な対応ができた。                                      |   |
|                |   | 保健学習を行う。   | B  | B   | 本校校医による歯科講話及びエイズ学習・薬物乱用防止講演は内容が充実しており、1・2年生とも約8割が「よく理解できた」と答えた。   |
|                |   | 教育相談会議を機能的に運営し、共通認識をする。                          | B  | 教育相談対象生徒への対応や指導においては、教育相談会議で十分検討するとともに全教職員が共通の理解を得るなど組織的に対応することができた。スクールカウンセラーの相談件数が増加し、相談の時間枠が足りないくらいであるが、相談に来た生徒は継続的に活用し良い方向に進められている。   |   |
| 学習環境           | 環境美化活動により、より良い学習環境づくりをする。                           | 大掃除ごとに重点項目を示し、清掃活動を実施する。                         | B  | 日常の清掃に加え、年間13回の大掃除毎に重点目標を示し、教職員の指導により生徒全員の取組による徹底した清掃活動を行うことができ、美化意識を高めることができた。   |   |
|                |   | 日常清掃と「汚さない日常生活」を心がける気持ちを育てる。                     | B  | 美化意識を高めるため、今年度も「クラス対抗美化コンテスト」を実施するとともに、「ゴミを減らそう・分別を徹底しよう」というテーマでポスターを作成するなど、保健美化委員中心に啓発活動ができた。今後更に、嵯峨野高生には汚さない日常生活を心がける気持ちを育む教育を実践していきたい。 |   |
|                |   | ごみの分別を徹底するとともに持ち帰らせる指導を強化し、ごみの量を削減する。            | B  | B   | ゴミの分別を徹底するために、全ホームルーム教室のゴミ箱を分別できるように設置した。その結果、分別状況は良好となった。また、今年度は特別教室・廊下・階段のゴミ箱を一新し、分別状況の改善に寄与した。トイレについても今後検討する必要がある。一方、持ち帰らせる指導はできておらず、ゴミの総量の削減には至っていないことが課題である。 |
|                |   | 環境保護の一環として省エネルギー(節電・節水)を呼びかける。                   | C  | 生徒の節電・節水はまだ十分とは言えず、環境問題への意識が希薄な面は否めないが、啓発ポスターを作成し、啓発シールを貼るなどの取組により環境問題に対する意識の向上が見られるようになった。生徒の意識を行動に移すような指導がさらに必要である。                     |   |
|                | 樹木に囲まれた自然環境の中、校舎等の施設・設備の維持管理に努めより良い学習環境を保持する。       | 学習環境への関心を高め、冷暖房等へのコスト意識を学校全体で共有できるように各種情報の提供を行う。 | B  | B   | 教職員の環境問題への関心は高く、コスト意識は高まっており、今後は更に工夫を凝らした方法で学校をあげて実践したい。  |
| 研究・研修          | 指導力向上のため、研修の充実を図る。                                  | 分掌研修を内容・実施時期を見直し、より時宜に合ったものとする。                  | B  | 本校の教育課題の改善と最新の教育情報を得るために、夏期休業中に各分掌からの研修を実施し成果を上げた。  |   |
|                |   | 教科指導力向上のための外部研修を円滑にサポートする。また、研修対象について検討を行う。      | B  | B   | 予備校等の外部教育機関での研修に多数の教員が参加し、教科指導威力の向上を図ることができた。   |
|                |   | 各教員の個人研究や授業実践、専門学科の専門教育を研究紀要にまとめ発行する。            | B  | 各教職員の教科に関わる個人研究や授業実践や学校の取組をまとめ、研究11号として発行した。  |   |
| 情報・文書管理        | 個人情報保護の観点も踏まえ、セキュリティを確保しつつ効果的な校務管理体制を推進する。          | 本校独自の校務システムを円滑かつ確実に運用する。                         | B  | B   | 成績や出欠管理に際しては本校独自の校務システムを円滑かつ確実に運用し、個々の教員は生徒の出席管理を滞りなく行えた。   |

| 領域            | 重点目標   | 具体的方策  | 評価 | 成果と課題  |
|---------------|--|--|----|--|
| 広報活動・生徒募集     | 普通科及び京都こすもす科に関する広報活動や特色ある取組の充実を図り、意欲をもった生徒の応募につなげる。  | 学科説明会等の開催、中学校・塾対象説明会及び関係機関等への訪問について、内容や方法の充実・改善を継続し、各系統の特色の一層の周知を図る。とくに文系系統のアピールや普通科 類との運動において特段の配慮と措置を検討する。 | B  | 学科説明会(7月)は約1700名であった。学校説明会(9月実施)、入試説明会(10月実施)にはほぼ昨年並の参加があった。中学校や関係機関への訪問においては、計画した目的を達成できたが、訪問の時期や内容面で尚一層の研究の余地がある。<br>各種説明会の内容は概ね十分であると考えられる。各系統の特色を鮮明に印象づけるプレゼンを検討し、専門科目の特徴や既に実施している内容をより充実させ、広くアピールすることが必要である。<br>京都こすもす科適性検査では今年度も倍率が2倍を超えた。新設される普通科第 類型数系は2.4倍、 類特色選抜は7.8倍の高倍率となり、部活特活20%枠にも府内最高倍率となる多くの出願があった。 |
|               |  | 各種広報資料の作成及びホームページの充実を図る。   | B  | 1月初旬にホームページのリニューアルを行い、より見やすい形式のものとした。学科案内、系統別リーフレットなど多彩な広報物を発行した。今年度も「サイエンスレター」を発行した。また、今年度より「アカデミックレター」、「夢を追い続けて 京都こすもす科の卒業生たち」を発行し情報提供を更に一層充実させた。ホームページの原稿作成においては組織的に取り組むことができた。   |
|               |  | 各分掌・各教科と連携を密にして、ホームページに各種行事等をタイムリーに掲載する。   | B  | 本校ホームページへのアクセス回数は1日あたり平均200回あった。ホームページは平均週2回の更新を行い、各種行事等をタイムリーに掲載することができた。受け手にとってよりわかりやすく情報を提供できるよう工夫を今後もしていきたい。   |
| 家庭・地域社会との連携   | 家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う。  | PTAとの連携を充実し、家庭への情報提供を進める。とくに、メール情報配信事業の円滑な運用を図る。   | B  | PTAとの連携を充実し、今年度より「PTAおしらせメール」の配信を開始した。毎週金曜日の定時配信を含め、延べ46回の配信を行ない家庭への情報提供を進めた。  |
| 家庭・地域社会との連携   | 家庭・地域社会との連携を図り、開かれた学校づくりの取組を行う   | 「嵯峨野だより」の内容を充実させ、よりきめ細かな情報提供を行う。   | B  | B<br>「嵯峨野だより」の年3回の定期的な発行を行い、学校での教育活動を保護者等へお知らせすることができた。また、ホームページに学年のページを設け、学年便りや学年での行事等における生徒の様子を発信することができた。<br><br>本校を会場に右京区地域の防災訓練が実施されるなど、地域社会への一定の役割を果たすことができた。マスコミ等の取材も積極的に受け入れ本校の教育活動がテレビ、新聞、雑誌等で多数取り上げられ、広く府民に知らせることができた。   |
|               |  | より広い地域社会への貢献を目指し、さまざまな取組を模索する。   | B  |  |
| 今年度の成果と課題     | 遅刻防止への取組や自転車の傘差し運転の指導に成果が見られ、概ね落ち着いて規律有る学校生活を送らせることができた。ルールやマナーの向上を図る指導を今後も継続する。<br>重点目標を定めた年間13回の大掃除や、ゴミの分別のために校内のゴミ箱を一新したことなどにより校内美化に成果を上げた。自ら進んで学校を美しくする行動ができる人間を育て、環境意識の向上を図る教育を進める。<br>学習習慣定着月間を設けるなど指導に工夫を重ね「学習のトライアングル」の確立を図るよう指導した。生徒による授業評価によると、およそ90%の生徒が授業で学力向上が実感できると答えていることから、授業への期待感が高いことがうかがえる。しかし、家庭学習時間がまだまだ十分確保されているとは言えない。<br>保護者アンケートからは、Sagano Dynamicsの取組が周知されてきたことがうかがえた。Sagano Dynamicsの具現化を目指して「学力向上フロンティア校」「SPP」の各種指定事業を推進した。サイエンスレクチャーシリーズに引き続いてアカデミックレクチャーシリーズを始めるなど幅広い、内容の濃い特色ある教育活動を展開できた。ラボの充実など魅力ある教育内容への改革を進める。<br>平成22年度設置の普通科第 類型数系の志願倍率は府内最高となり、京都こすもす科を含めて、本校への目的意識の高い生徒の志願に結びつけることができた。<br>難関大学等への進学者数も増加した。生徒一人一人の課題を明確にして、教職員の一一致した指導体制が生徒の学力向上につながったと言える。また2学年の朝学習の取組など、生徒の実態に応じたこまめな取組を積み重ねた。難関国公立大学をはじめとする第一志望実現のために、1年次より志望校への進学意欲の向上をはかるような取組をあらゆる教育活動を通じて進めて行く必要がある。 |  |    |  |
| 次年度に向けた改善の方向性 | 本校教育に関わる全ての教職員は生徒一人一人に深い愛情を注ぎながら、その使命を自覚し高い見識と豊かな指導力を持ち、日々研鑽に励み、生徒の学力と人間力を向上させるよう努めます。<br>集団生活の中で礼節ある態度の育成と規範意識の向上を図り、服装、挨拶、言葉使いや、遅刻防止等については教職員の一致した指導体制で、引き続き粘り強い指導を行っていきます。<br>年間を通じた計画的な清掃活動を行い、校内美化活動の更なる実践と、美化意識(「ゴミはゴミ箱へ精神」)の高揚や節水・節電等、省エネルギーの意識を生徒・教職員に徹底していきます。<br>saganoフィロソフィーの理念のもと、「Sagano Dynamics」を更に進化させるように推進し、幅の広い本質的な学力の伸長を図る。そのために組織的、計画的、恒常的に質の高い授業を展開します。また、各種指定事業を学校全体で取り組み、普通科・京都こすもす科ともに特色のある事業を推進していきます。<br>生徒一人ひとりの進路意識を早期から啓発し、より高い目標に向かって努力する姿勢や心を養うとともに、組織的・継続的に進路指導に取り組んでいきます。   |  |    |  |